

名古屋大学におけるオキュペイショナルハイジニストの導入について

○後藤光裕、松浪有高

工学系技術支援室 環境安全技術系

概要

オキュペイショナルハイジニストとは、職場における化学的、物理的、生物学的に有害な作用因子を特定し、健康上のリスクを評価し、管理するために必要な技術的支援を行う等、リスクアセスメント・リスクマネジメントを実施する者をいう。平成 26 年度の技術研鑽プログラムにおいては、昨年度から継続する形で日本作業環境測定協会が主催する認定オキュペイショナルハイジニスト養成講座のカリキュラムを履修し、スキルアップとともに今後に向けての情報収集を行った。

今回の発表では、平成 26 年 6 月に労働安全衛生法の一部改正する法律により一定の危険を有する化学物質 640 物質についてのリスクアセスメントが平成 28 年 6 月までを目処に義務化されることになり、今後大学においても当該物質使用者についてのリスクアセスメントを実施する必要があることから、名古屋大学への対応についての検討を報告する。

1 オキュペイショナルハイジニストの資格制度

1.1 資格の認定^[1]

オキュペイショナルハイジニストの認定を受けるためには、養成講座 93 単位の取得、その後の評価試験合格の他に 3 つの要件を全て満たす必要がある。

- 1) 第 1 種作業環境測定士、労働衛生コンサルタント（衛生工学または保健衛生）、衛生工学衛生管理者または認定委員会が同等以上と認める資格を有すること。
- 2) 作業環境管理その他の労働衛生管理に関して 5 年以上の実務経験を有すること。
- 3) 理工学・医学系等の学士の称号を有すること、その他認定委員会が同等以上と認める条件を満たすこと。

表 1 養成講座の内容と時間数

項目	時間	%	
○化学物質等の規制、管理の内外の動向に関する知識	6時間	6.5	
○労働環境のハザード評価	18時間	36.5	
○労働環境のリスク評価	12時間		
○リスクコミュニケーション	4時間		
○一般環境のハザード・リスク評価、リスク管理	5時間	5.4	
○物理的有害因子のリスク管理	14時間	物理因子 14時間	15.1
○生物的有害因子のリスク管理	3時間	生物因子 3時間	3.2
○環境管理の工学的対策(作業環境、一般環境)	5時間	労働衛生工学的 対策 15時間	16.1
○労働衛生工学概論	10時間		
○疫学調査	3時間		3.2
○労働衛生学及び人間工学的課題	10時間 (人間工学 4時間)		10.8(4.3)
○公衆衛生概論	3時間		3.2
合計	合計 93 時間		100%

1.2 認定期間と更新^[2]

オキュペイショナルハイジニストの認定期間は5年間で、その後資格を維持するためには認定の更新を受ける必要がある。これは産業構造や科学技術水準の変化が無視できない可能性を考慮したことと、欧米の制度においても認定期間を5年としていることからによる。

認定更新のプロセスは表2に掲げる項目の評点を、認定期間である5年間の内に100点以上を取得することと申請書類の審査により行われる。

オキュペイショナルハイジニストの認定、更新共に難関な資格となっており取得者は日本作業環境測定協会のホームページに公開される。平成25年4月時点において日本に17名しか認定されていない。

表2 評点の内容と割り振り

カテゴリー	内 容	評 点	上限(又は必須)
I	オキュペイショナルハイジーン（労働衛生）分野における活動（フルタイムを基本とする ^{a)} ）	10/年（フルタイム） —	
II	認定委員会が認定する講習等の技術研修 ^{b)} の受講、あるいは認定委員会が認定する学会等の学術集会 ^{c)} への参加	0.5/時間	30（必須）
III	認定委員会が認定する学術雑誌等 ^{d)} への論文の掲載	査読付筆頭著者：4/編、 査読付共著者：2/編、 査読無著者：1/編	50
IV	認定委員会が認定する学会等の学術集会 ^{c)} における口頭発表	口頭発表：2/件	20
V	認定委員会が認定する講習・学術集会等における講師 ^{b), c)}	1/時間	20
VI	認定ハイジニストに関する委員会への参画	1/年	20

2 名古屋大学へのフィードバック

環境安全に関する分野で求められることは日々変化しており、直近では平成26年11月からクロロホルムを始めとした10種類の有機溶剤が特定化学物質（特別有機溶剤）に変更され、それらの物質に対する対応の変更が求められた。さらに今後の喫緊の課題として平成28年6月までには義務化される化学物質640種類に対するリスクアセスメントの実施がある。日々変化する大学における実験内容、方法にマッチしたリスクアセスメントの手法で、適切な実施方法を構築することは非常に難しく、重要な課題である。

一般的なリスクアセスメントの実施方法については、SDS(Safety Data Sheet;化学物質の安全データシート)の危険度を検査している専門家から、オキュペイショナルハイジニスト養成講座において講義があり、過去の事故における人体に関するデータや動物実験における危険度の算定方法等を示しながら、コントロールバンディングの手法を学んだ。これは化学物質の製造元が発行しているSDSからリスクを机上で算出することでリスクアセスメントを行う方法であり、危険性を認識するためには有用で効果的な手法であると考えられる。

しかしながら、大学等の研究室特有の事情や条件も考慮すると危険度合いの具体性に欠くため、一般的な方法のみではなく、物質ごとの事故事例のデータベース作成も加味したリスクアセスメント手法が必要と考えられる。例えば化学物質に関しては、SDSの常備と大学・研究所などの事故事例（特に名大における過去の事例）の理解を個人へ落とし込むことによって、自分の周りにおける危険(リスク)因子の除去・回避方法を理解し、改善の検討・検証を行うことに繋げるなど地道ではあるが、個人の意識改革も含めた方法を取り入れていくことが必要である。いずれにしても名古屋大学全体に係わることであることから、喫緊な課題として全学的な検討を開始する必要がある。

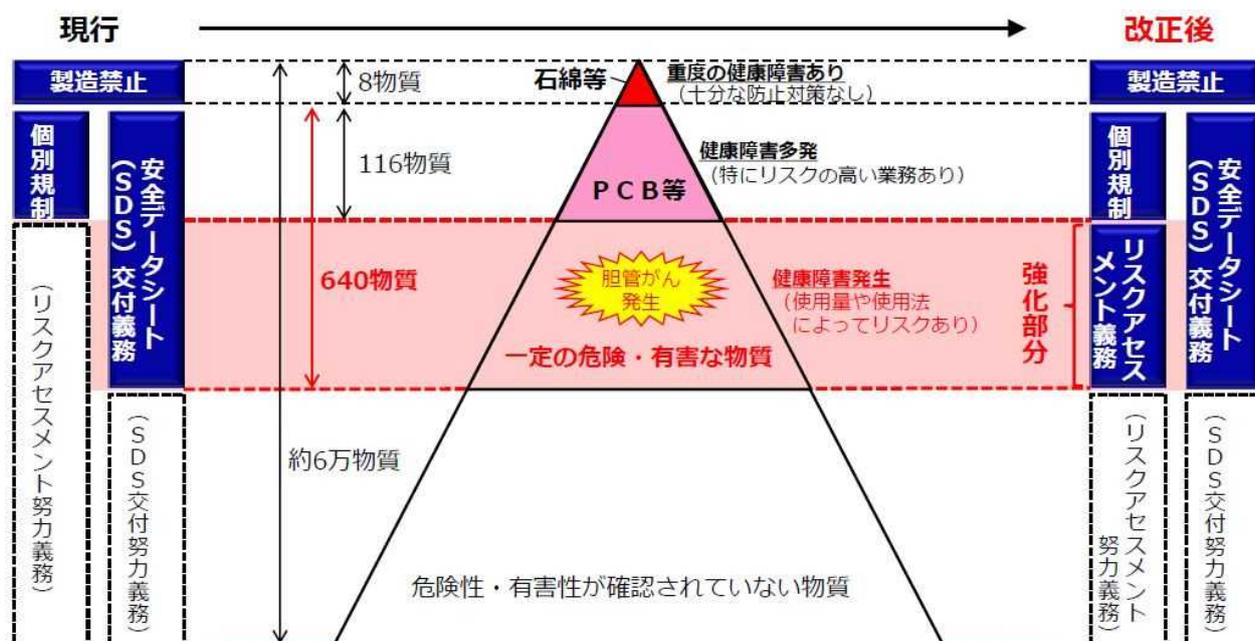


図1 法改正によるリスクアセスメント義務化の概要^[3]

3 まとめ

今後も変化する法体系や環境に対応するためには専門の講習会等に参加し、継続的に情報収集をすることにより知識や技能の習得を日々行っていくことが必要である。また安全衛生部門を専門かつ先進的に行える人材を育成していくことが不可欠である。

特に名古屋大学におけるリスクアセスメント（化学物質 640 種類）の導入に関しては大学特有の事情を考慮した物へカスタマイズされる必要があり、先に述べたような事故事例等の視覚的な資料の導入や、先般実施された工学部における特別安全教育での学生への「自身の研究に対する危険性の洗い出しと対応検討」のような研究室に踏み込んだ内容を組み込み、より一層当事者意識を持たせる内容にする必要があると考える。

4 参考文献

- [1] オキュペイショナルハイジニスト認定制度等検討委員会報告書
- [2] 日本作業環境測定協会認定オキュペイショナルハイジニスト規定
- [3] 厚生労働省 労働安全衛生法の一部を改正する法律(2014 年法律第 82 号)の概要

5 謝辞

今回、「全学技術センター 平成 26 年度技術研鑽プログラム経費」をご交付いただき、認定オキュペイショナルハイジニスト養成講座を受講させていただく機会を与えてくださいました。全学技術センター長 藤井先生、全学技術センター技術部長 松村先生、工学系技術支援室熊澤室長、環境安全系釣田課長および全学技術センターの関係の皆さまに心より感謝いたします。ありがとうございました。